

## 第25代

# 武烈天皇ご用達角鹿の塩はどこで作られたか

## 角鹿之塩爲天皇の所食餘潮爲天皇所忌

敦賀郡神社詩（全）五幡神社・八幡神社の段より

<現代語訳>

敦賀の海から採れる潮は、天皇の御食用に使われたが、他の塩は天皇の忌まれる所となった。

越前角鹿塩の五幡村産（いつはたむらさん）の塩（これ以外の塩は一切使用されなかった）

五幡の塩以外の他国産の塩を示す。（例・能登の塩・瀬戸内の塩・他多数）

武烈天皇曰く、他の海で取れた塩は、呪いがかかっているため



五幡海岸 夏は海水浴場 ここで角鹿の塩が作られていた



国道8号線沿いの五幡村の信号機

五幡村は田畑を耕す土地が少なく大変貧乏な村であったようだ。しかし年貢の取り立ては必ずあり、村人達が知恵を出し合い、目の前にある綺麗な海から塩を作ろうと村一丸となって角鹿の塩が出来たといわれている。この塩のおかげで村は潤い、豊かになったと聞いている。昭和 23 年頃まで作られていたようだ。

この当時の天皇は**第 25 代天皇武烈天皇の時代**である。

当時はさらに 3 倍ぐらい砂浜があり、能登半島の千里浜ドライブウェイ 8K に及ぶこの先が気多神社で同様に硬い砂浜で小さいが車が走れる砂浜である。

この五幡の海は現在五幡海岸(海水浴場になっている)

五幡神社は、東西北に河端のテリトリーであるのだが、おそらく東河端のテリトリーと思われる。天満宮の宮司であった河端治が明治時代兼務していた。



八幡神社



井津端神社入り口



五幡神社



五幡神社の横にある 山の神

この神社は、本当に山の上にある神社だが、今も村人がしっかり守っている。7 月には五幡神社のお祭りがあり、9 月には八幡神社のお祭りがあるそうだ。

当家戦国時代から5代目平松周家「社記」から、五幡村のことが書かれている。蒙古軍が五幡村に攻めてきたとき、村人は山に入り一番大きな長い竹を5本とり、それに白い布を付け、旗を作り一斉に旗を振ったら、蒙古軍はそれを見て退散したと書かれている。

私の祖父（当家11代目大中臣朝臣魚取公平松周定 氣比神宮禰宜）はこの塩にこだわり、神に供えるときは必ず角鹿塩を使用し、お米も敦賀のお米を備えていた、又大きなお祭りや大事な祝詞を行うときは、5日間の絶食、寝る時も別にし、邪気を払い、体は水で清めて行っていた。幼き頃、静かにしなさいとよくしかられたことを覚えている。金ヶ崎神宮の神主であった叔父、大中臣朝臣魚取公河端守も同様であったと記憶している

参考文献 「社記」

五幡の川久保忠興 より提供